



2015年 春季号

平成27年5月発行 通巻第2号

同窓会報



(写真/遠藤猛)

目次

巻頭言 同窓会長 諸井寿夫.....	2
さやま市民大学 2年目を迎え4月から講座を再編成.....	3
小山周三市民大学長に聞く 講座再編成のねらい	
年度別・学科別 募集人数と入学者数一覧.....	4
人間探訪	5
第1回 後藤進さん 90歳で、なお現役	
ご無沙汰しています —あときの先生は今。.....	6
第2回 狭山の歴史学科 高橋光昭先生	
活動支援とクラブ活動	8
会員募集中 / 3団体と14クラブの紹介	
連載予告 ストップ・認知症	10
こんなことあんなこと 同窓会がからむニュースから.....	11
告知板・編集後記.....	12

「さやま市民大学同窓会」は皆様の貴重な会費で運営されています。

課題に挑戦し、積極的に取り組みたい

会長 諸井 寿夫

＝新しい体制になって＝

昨年の6月26日には、変則的な2つの総会を同時に開催して、新しい「さやま市民大学同窓会」が誕生しました。2つとは、SSCC同窓会の最後の総会と、市民大学同窓会の設立総会です。

あれから、間もなく2年目を迎えます。この大きな変化に対して、多くの皆様のご協力、ご理解を頂きましたことに、ここに改めて感謝を申し上げます。

また、時を同じくして当市の「市制施行60周年」

の多くの記念行事が開催され、式典では、多くの当会関係者が市制功労者の感謝状を受けています。同窓会でもいくつかの場面で企画に参加させていただきました。新生同窓会が慌ただしく主催した「防災シンポジウム」や、同窓会ウォーキングクラブが協力した秋の

「Well-being ウォーキング in 狭山」には、多くの市民の参加をいただきました。健康の増進にもつながるこの行事は、ぜひ今後も続けて、狭山市の名物行事に発展させたいものです。

＝同窓会の存在を更に進化させよう＝

今期の市民大学同窓会は、存在感を更にアップさせたいと思っています。昨秋の市民大学の行事である学園祭には、多くの同窓会会員が参画し、3月の大学の修了式にも交流会レベルの参加をいたしました。このことに学長をはじめ、行政など実行委員会からも同窓会が大変盛り上げてくださったとの評価をいただいております。

修了生団体がいかに元気に活躍しているかが、この市民大学の大きなバロメーターであると思います。このように協力することが、同窓会の役割も大きく変化して、多くの市民の皆さんからも期待される存在に進化することだと思います。

「母校」のさやま市民大学も2年目を迎え、講座内容も一新してスタートしました。同窓会も多くの局面で大学運営や講座運営に協力して、その修了生をスムーズに受け入れる体制が必要となります。この具体的な協力として、パソコン初級の協賛講座は、パソコン支援の会が全面的に企画、運営をしております。

ます。

また、実用英会話講座は、学校支援(SSVC)部隊が主体で受託をしております。これは、当会の活動領域の拡大と修了生の同窓会での活躍を期待しての試みと挑戦です。

27年度より、事務局機能も同じ狭山元気プラザ内に設置することができ、今後はお互いに協力する基盤も着々と出来上がってきております。

＝活動を飛躍させるにはお互いの協力が＝

私たちは、今まで実社会で積み重ねて来た経験、知的財産、修了生としての学びの成果を地域のため、そして自分の生きがいのための場として提供するとともに、お互いに協力することだと思います。

川の流れと同じで、流れがストップしてしまうと池になり、濁ってしまい、悪臭がしてきます。この人材の流れも同じで、市民大学を源流にスムーズに合流して勢いを増し、更なる飛躍を期したいと考えております。

＝積極的な挑戦は「健康寿命」を伸ばす＝

日本人と外国人では、会議で提示された内容とか、お互いの議論の中で、“DIFFICULT”(難しい)と捉えるか“CHALLENGE”(挑戦する)と感じるか、日本人と外国人では違いがあるように思います。つまり、「それは、難しいよ」「どうせ無理」との一言で、終わってしまう。外国人は、「それは、挑戦だ」と。

ぜひ、難しい課題に対してもポジティブ(前向き)に取り組んで行きたいと思っています。

例えば、「貧困の連鎖を断ち切る」ことが社会的に大きな課題となっています。「生活困窮自立支援法」が4月より施行されました。埼玉県が主催する学習支援事業にSSVCも事業として企画提案しました。結果は選定されませんでした。この事業は有意ある活動で、積極的な挑戦の一例だと思っています。

寿命は、男女ともどんどん伸びていますが、多くのことに積極的に「チャレンジ」することは、若々しく、活動的な毎日となり、「健康寿命」を伸ばすことに大きな要素となるようです。



(狭山ケーブルテレビ「お茶べりーナ」から)

2年目を迎え4月から講座を再編成

学部・学科を ⇨ コース・講座に

2年目を迎えたさやま市民大学ではこの27年4月の新年度から講座の再編成を行い、これまでの学部をコースに、学科を講座と改めた。これにより、コース数は3、講座数は16（うち後期開講が4）となった。ほかに特別講座が1座、協賛講座が2座ある。

コース別の講座名と入学状況は次の通りである。カッコ内は（募集定員/入学者数）

1. まちづくりコース

1. まちづくり担い手養成講座（25/18名）
2. 地域ジャーナリスト養成講座（20/16名）
3. まちのガーデナー養成講座（25/26名）
4. 狭山地域ふるさと学講座（25/31名）
*まちづくりコースでは、後期開講講座として10月中旬に次の2座の開講を予定。
5. 地域の防災リーダー養成講座（詳細未定）
6. 食と農のコミュニティビジネス講座（詳細未定）

2. 健康・福祉コース

7. 健康づくり・介護予防サポーター養成講座（25/25名）
8. パパ・ママのお助け隊養成講座（25/22名）
9. ウォーキング講座（30/23名）
*健康・福祉コースでは、後期開講講座として10月中旬に次の2座の開講を予定。
10. 子ども見守り隊養成講座（詳細未定）
11. 地域ケア担い手養成講座（詳細未定）

3. いきがいコース

12. いきがい講座（30/30名）
13. 狭山の歴史講座（30/35名）
14. ~~地域活動・生涯学習情報案内人養成講座~~
—（募集を中止）—
15. 実用パソコン講座・中級（20/20名）
16. 実用パソコン講座・実用（20/20名）
17. 実用英会話講座（25/24名）

4. 特別講座

18. さやまの生活文化伝承講座（25/20名）

5. 協賛講座

協賛講座とは、市内の市民団体などが企画・実施する講座の開催を、さやま市民大学が応援するもの。今期は試行として次の2座を開講した。

19. パソコン講座・初級（20/20名）
主催；市民大学同窓会、狭山パソコン支援の会
20. 韓国語講座・るんるんハングル（25/8名）
主催；NPO法人ヨモラの会

4月からの講座再編成のねらい 小山周三学長に聞く

協働のまちづくりが推進できる人材育成型の市民大学に

去る4月10日に入学式が行われ、さやま市民大学の2期目が始まりました。3コース12講座および特別講座1の合計13講座の受講生313名が、それぞれの講座を通じて学び、仲間づくり、地域活動などを目指して市民大学の学び舎を活用することになりました。10月からは、防災、福祉ケア、食・農起業ビジネスなどの後期講座の開講が予定されているので、今年度の受講生数は400人を超えることになりそうです。因みに、平成26年度の修了生は398名でした。半年ないし通年の中身の濃い講座になっていますので、協働のまちづくり人材育成型の市民大学に近づいていくと思います。

1期目は2つの市民大学が統合しましたので、旧SSCCが築いてきた「いきがい学部」と旧元気大学が新たに取り組んできた「まちづくり学部」の2学部での運営体制になりました。今年は市民大学の設立趣旨に合

った講座企画を中心に考えた結果、「まちづくり」「健康・福祉」「いきがい」の3コースに括り直し、さやま市民大学らしさが出るコース・講座編成にしました。コース毎に担当マネージャーがいますので、講座の改・再編成などがやり易くなると思います。



さやま市民大学は出口型の市民大学を目指しています。学んだ後で、地域コミュニティ活動などの分野で、学びの成果を存分に活かして欲しいのです。すでに修了生の手によって、健康づくり、防災、ふるさとタウン化、花のまちづくりなどを進める動きが始まっています。自分たちの手で、住み良い新たな居場所づくりにつながる、協働のまちづくりが推進できる人材拠点に発展させたいと思っています。

<資料> 年度別・学科別に見た 募集人数と入学者数一覧

SSCC・元気大学・市民大学

【SSCC】	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	【市民大学】		2014年	2015年
	(平成12) 定員 入学	(平成13) 定員 入学	(平成14) 定員 入学	(平成15) 定員 入学	(平成16) 定員 入学	(平成17) 定員 入学	(平成18) 定員 入学	(平成19) 定員 入学	(平成20) 定員 入学	(平成21) 定員 入学	(平成22) 定員 入学	(平成23) 定員 入学	(平成24) 定員 入学	(平成25) 定員 入学	(平成26) 定員 入学	(平成27) 定員 入学	(平成26) 定員 入学	(平成27) 定員 入学
いきがい(基礎)	30 31	30 29		30 21	30 30	30 32	30 30	30 28	30 28	30 23	30 29	30 31	30 25	30 24	まちづくり担い手養成	25 21	25 18	
いきがい研究		50 31													ジャーナル	20 15		
いきがい余暇開発学科			30 36												地域ジャーナリスト養成		20 16	
パソコン 基礎					40 40	40 40	40 ★	40 ★	20 ★	20 16	20 ★	20 ★	20 ★	20 ★	まちのガーデナー養成	25 28	25 26	
パソコン 初級	40 39		60 60	80 79	40 39	80 80	80 ★	80 ★	40 ★	20 20	20 ★	20 ★	20 ★	20 ★	狭山地域ふるさと学		25 31	
パソコン 中級A		40 39	40 40	40 30	40 39	40 40	40 ★	40 ★	40 ★	20 20	20 ★	20 ★	20 ★	20 ★	健康づくり・介護予防サポーター養成	25 16	25 25	
パソコン 中級B										20 13					パパ・ママお助け隊養成	25 24	25 22	
パソコン 講師/実用			20 20							20 20	20 ★	20 ★	20 ★	20 ★	トレッキング	30 35		
パソコン VISTA									20 ★	20 20	20 ★	20 ★	20 ★	20 ★	ウォーキング		30 23	
狭山の歴史(普通)	30 30	30 30	30 37	40 34	30 35	30 30	30 ★	30 ★	30 ★	30 36	30 ★	30 ★	30 ★	30 ★	いきがい	30 30	30 30	
歴史(研究)ガイド		20 20	20 28		30 19		20 ★		30 ★						狭山の歴史 普通	30 36	30 35	
歴史 石仏				30 32		21 18		30 ★		20 15	20 ★	20 ★	20 ★	20 ★	狭山の歴史 石仏・文化財	20 17		
英会話 初級	20 19	20 20	20 20	20 20	40 39	40 39	30 ★	20 15	20 20	20 20	20 24	20 27	20 17	20 19	地域活動・生涯学習情報案内人養成	25 13		
英会話 初級B								20 15							さやまの生活文化伝承	20 15	25 20	
英会話 中級		15 20	20 22	20 20	20 21	20 19	20 ★	20 20	20 17	20 14	20 18	20 25	20 15	20 14	パソコン 入門	20 20		
英会話 上級			20 21												パソコン 初級	20 15		
ハンゲル 初級(入門)	20 20	20 19	20 22	20 17	20 18	20 19	20 ★	20 ★	20 ★	20 24					パソコン 中級A	20 18		
ハンゲル 中級		15 15	20 15	20 16	20 20	20 14	20 ★								パソコン 中級B	20 19		
ハンゲル 上級			20 12												実用パソコン(中級)		20 20	
中国語入門							20 20	20 20	20 21	20 19	20 12				実用パソコン(実用)	20 20	20 20	
ガーデニング		20 20													英会話 初級	20 23		
レクリエーション		20 24	25 24	24 24	24 24		24 28	24 23	24 22						英会話 中級	20 24		
ジャーナル			30 30	24 22	24 21	24 24	24 20	24 17	24 23		24 24	20 15	20 15	20 20	実用英会話		25 24	
マジック			30 30	30 30	30 24	30 22	24 ★	24 ★	24 ★						地域の防災リーダー養成	30 26		
楽農			30 33	30 30						30 30	30 29	30 22	30 24		合計	445 415	325 310	
高齢者ピアカウンセリング					24 23	24 24	30 28	24 26							(参考/協賛講座)			
子育て支援									30 27	★ 15					パソコン 初級		20 20	
合計	140 139	280 267	435 450	408 375	412 392	419 401	432	446	392	307	294	290	270	240	韓国語		20 8	

【元気大学】

CB起業	25 22			
子育て支援者養成(パパママ)	20 12	20 17	20 19	
健康づくり・介護予防サポーター養成	25 17	25 22	25 17	
ソーシャルファーム 援農者養成	25 16			
コーディネーター養成	25 21			
生涯学習案内人養成	25 26		25 12	
CB(食と農)	25 12			
CB起業(後期開講)		25 11		
畑のセミプロ		25 15		
ボランティアコーディネーター養成(前期)		25 13		
庭木のセミプロ		20 20	20 22	
地域・街活プロデューサー養成		25 25		
ピリヤード指導者養成		15 16		
まちづくり担い手養成			30 26	
地域の防災リーダー養成			50 42	
合計	170 126	180 139	170 138	

お願い／

定員欄の★印、入学欄の★印は人数が未確認です。心当たりがある方は同窓会事務局までお知らせください。

市民大学同窓会には660人を超える会員が在籍しておられるが、最高齢の方はどなたなのかと探してみると、昨年12月に90歳となられた方がおられた。卒寿である。それも、同窓会に籍があるだけでなく、SSVC(学校支援)に加わり、現役で活動されているというのだ。入曾にお住まいの後藤進さんである。

その若さと元気にあやかりたくてお目にかかると、お歳を感じさせずにすこぶるお達者な方だった。SSVCの活動はこの4月の新学期からも継続され10年目に入ったが、今後も「健康の許すかぎりずっと続けたい」とまだまだ先を見据えておられる。どんな方なのか、お話しをお伺いしよう。(構成 広報部 中岡義)

90歳で、なお現役。SSVCの支援活動は10年目に

後藤進さんに初めてお目にかかったのは2月14日の山王中の体育館だった。この日は土曜日ながら生徒会が主催したSSVCなどボランティアの学校支援者(この日は20人が出席)に謝恩の意を込めての、3年生全員による合唱と支援者一人一人に生徒から花束贈呈のパフォーマンスの場である。後藤さんも満面の笑みで生徒から花束を受け取られていた。

後藤さんの学校支援歴は、入間中で最初は理科、次いで数学を、山王中で理科を教えられていた。

教職一筋の人生に支援が加わり

後藤さんは大正13年のお生まれで、敗戦の翌月に地方の国立大学の前身を短縮卒業し、停電の東京に

健康の秘訣を伺うと、「3つあると思う。①乾布摩擦 ②食後の30分の散歩 ③学校支援」と即答。なかでも学校支援は、若い人と接しているのが若さを保っているのだと確信。若い人からエネルギーがもらえるのだ。「まさに、持ちつ持たれつなのです」。

学校支援で最も幸せを実感するのは、学年末に生徒一人一人がお礼のメッセージを書いてくれるが、今年も1学年100人を超えるほとんどすべての生徒が、感謝の言葉で埋め尽くされていた。「それを読みながら、思わずウルウルくることもしばしばだった。1年間の活動が評価されたものと思い、私の掛け替えのない宝物となっている」と言われる。

通常の支援でやりがいを感じるのは、教員以外の人が教室に入行って、ドリルとかで解けないでいる生徒に教えると、「わかった!」との言葉を返してくれるときだ。元気が出て、帰りの家路も軽やかになる。



【写真・右】山王中の生徒会から感謝の花束を受ける(2月14日) 【写真・上】入間中で最後の支援授業(2月25日)



『健康が許すかぎり続けたい』

山王中CNの中川伸一さんは、後藤さんのことを「好奇心が旺盛で、若いときのそのままを持ち続けている人。それがユニークでもある」と評され、入間中の鈴木真澄教頭(4月から入間野中教頭)、「支援授業以外に職員にも楽しい理科の実験や手品を披露くださった。知的好奇心がくすぐられ、「教える」という素晴らしさを、改めて伝授いただけた貴重な体験でした」と話される。

残念だったのは、SSVC発祥の入間中がこの3月で閉校になったこと。4月からは山王中で10年目の支援に入るが、後藤さんは、「この学校支援は健康の許すかぎり続けたい」と、まだまだお元気なのだ。

帰省された。それから母校の私立高校に赴任、60歳の定年まで37年間を化学、地学の教諭として教鞭をとられる。その後、77歳で退職するまでの17年間は大学受験の予備校で化学を教えられていたというから、まさに教職一筋の人生であった。

リタイア直後の平成16年4月にSSVCのパソコ中級コースに入学。18年4月からは坂井敬一さん(初代センター長)や当時の入間中の澤井教頭らが中心になって出発した学校支援のテスト段階から協力する。

SSVCの正式なスタートとなった19年4月に、入間中で3年の理科を、後に3年の数学を支援し、この3月までの10年間は休みなく継続。また、並行して山王中では理科を断続的に4年間行ってきた。

ご無沙汰しております —あのときの先生は今。

第2回 狭山の歴史学科 高橋 光昭先生

SSCCが開講したのは平成12年で、これを第1期としていきがい学科など5学科がスタートしました。「狭山の歴史」学科はその1つで、講師は狭山市立博物館長(当時)の高橋光昭先生でした。第2期以降は「普通コース」とは別に「研究・ガイドコース」か「石仏・文化財コース」のどちらかが26年まで常に並行して設置されてきました。そしてこの4月に新しい受講生を迎えて第16期となりましたが、この間はどのコースも休講はなく高橋先生お1人で担当されてこられました。この間の入学者数はほぼ800人にのぼっています。

この人気学科を主導されている高橋先生にお話を伺いました。

(構成 広報部 中岡義)

●外から拝見していますと、今や「狭山の歴史」は志望者数からみてもすっかり人気学科となっており、元気さが感じられます。先生は当初、これほど「狭山の歴史」を学ぼうとするシニアが多いと予想されていたか。

博物館長時代から同館主催の歴史講座、あるいは古文書読解講座の講師を務めていましたが、そのころから募集定員を上回る申し込みがあったので、ある程度は予想していました。しかし、これほど多くの方が毎年応募してくるとは思いませんでした。受講生は、「さやま市民大学」になっても圧倒的にシニア世代の方が多のですが、受講生の皆さんの大多数は30~40歳代に狭山市に移り住んだ方々で占められています。受講動機を伺うと、これまた多くの方が「何十年も暮らしているのに地域のことや歴史を知らないから」との答えが返ってきます。とくに男性の場合は、自宅と会社を往復する「狭山都民」だったため、リタイア後の第二の人生に、これまでとは違った環境の中に身を投げ、新しい仲間と出会いたいと考えている方が多いように見受けられます。

●そうすると、シニア層が地元の「歴史」に魅かれるのは主に何だと思われますか。

日本史に登場する人物が狭山の歴史に現れたり、狭山市で起こった出来事とその後の日本の歴史に大きな影響を与えたからではないでしょうか。新田義貞の鎌倉攻めや南北朝時代に入間川が重要視されたことなどは、まかり間違えばその後の日本史が書き換えられるほどの出来事だったと思います。また、徳川家光が鷹狩りの時に下奥富を訪れたこと、水田地帯の農民は江戸時代から米を食べていたこと、鉄道の開通がもたらした入間川町の繁栄、陸軍航空士官学校の開校や敗戦時の米軍進駐にまつわる秘話などは、それこそ「狭山の歴史」でなければ学ぶことができません。

●なるほど、自分たちが暮らしている土地で生まれてきた歴史は誰もが関心のあることですし、市民大学に講座があるからには、そこで狭山の歴史を学べるのは有意義なことだと思います。

先生は博物館の館長の身で第1期から講師を務められ、今期で16年目に入りました。館長職は5年前に辞されましたが、その後も「狭山の歴史」はずっと続けられています。感慨はいかがでしょうか。

私は狭山市職員として38年間勤めましたが、うち37年間は歴史や文化財に携わる仕事をしてきました。もっとも長かったのは『狭山市史』の編さんで、最初の調査段階から全10巻の刊行まで関わりました。その間にさまざまな史料や資料を探し



出し、それらを活字化してきたわけですが、それは仕事であると同時に郷土の歴史を勉強させてもらう機会となりました。退職後も講師を続けているのは、在職期間中に勉強させていただいたことを少しでも市民の方に還元したいと思っているからです。「さやま市民大学」以外にも、ボランティア講師として年間150回以上も「出前講座」を行っているのも、昔風な表現でいえば「御礼奉公」といった気持ちからです。

● 4月10日の「さやま市民大学」の入学式が終わったあとで、先生は全学科の入学生に「狭山の歴史概観」と題して講演されていました。これは共通科目で4年前からですが、この意義は何でしょうか。

「元気大学」が発足した平成23年に事務局から依頼されて始めたのがきっかけです。当時はSSCCと元気大学は別組織でしたが、元気大学には「狭山の歴史」に関する科目がありませんでした。そんなところから全受講生が一堂に会する入学式場で、狭山市が歩んだ歴史とともに、当地の地理的環境や自然環境などにより形成された「土地柄」とか「人柄」をすべての受講生に知っていただき、各学科の授業に何らかの形で活かさせていただければと思って始めたものです。

● 27年度は「石仏・文化財コース」が休止となりましたが、特別講座として「さやまの生活文化伝承講座」が加わって、「普通コース」と合わせ担当されています。この「生活文化」の伝承講座の目的は何でしょうか。

「さやまの生活文化伝承講座」は、市制施行60周年を記念して昨年度から開設されたもので、3年間の期間限定講座となっています。当地でも長い間にわたって親から子、子から孫へと伝えられてきた伝統的な生活文化が、機械化や省力化、生活万般の欧風化により消えつつあります。そんな中で、昭和30年代を中心とした稲作、麦作、サツマイモ栽培、製茶、養蚕などの生業(なりわい)に焦点を当て、何とか記録に残したいとの市長の強い希望もあって開設されたものです。また、生業の節目などに作られた手打ちうどんといった食文化などにも触れていければと考えています。いわば名もない庶民の日々の暮らしの一端に光を当て、消え去りつつあるさまざまな事柄について、「記憶」から「記録」として伝え遺そうというものです。

● 私もお聞きしたくなりました。ところで、先生は「狭山の歴史」の講義のときに、もっとも重きを置かれるのは何ですか。また、これからの「狭山の歴史」講座はどのように発展されるのでしょうか。

受講生からみて、105分の講義がいかに楽しい時間だったと思われるように努力するのが、講師の務めだと思っています。ですから私は、雑学を交えた脱線話を意識的に取り入れています。また、講義が単調にならないように、話し方にも工夫しています。メリハリをつけ、「間」を取るようにも心がけています。歴史は新発見がなければ歴史的事実は変わりませんから、基本的にはこれまでの内容で進めて行きたいと思っています。ただ、同じ事象でも切り口を変えれば違った側面が見えることもあるので、寸時を惜しまず新しい歴史の見

方や知識を吸収し、それを講義に反映させることが大切だと考えています。読書は日課になっており、旅先にも持参しています。

● 「狭山の歴史」を修了して同窓会に入り、「歴史クラブ」に加入して調査・研究や史跡巡りなどを企画して、引き続き狭山の歴史を学んでいる方が大勢います。先生も顧問をされている同窓会の「歴史クラブ」への期待をお聞かせください。

多くの同窓生が集う「歴史クラブ」は、市内だけでなく市外にも研究の手が伸び、いくつにも別れたグループがその成果発表をする姿を見るにつけ、講師として無常の喜びを感じています。これからは「歴史クラブ」の枠にこだわることなく、その研究成果を広く発表する「公開講座」のようなものを開催していただければと願っています。



狭山市立博物館1階レストラン「こもれび」で

● 余談になりますが、「歴史」のほかに何かご趣味なり関心をお持ちのものがありますか。また、これからの人生の希望などもお聞かせください。

若い頃から鉄道が趣味で、専門の月刊誌は45年近く購読しています。「乗り鉄」「撮り鉄」など鉄道に関する趣味は多岐に分かれますが、私は自分で電車や気動車、機関車を運転してみたいと思っています。群馬県の横川に「碓氷峠鉄道文化むら」がありますが、そこでは学科実技講習を受ければ、かつて碓氷峠越えで活躍していた総重量108トンのEF63形電気機関車を運転することができます。ぜひ、実現したいと思っています。また、母校の同窓会支部長を務めている関係から、東都大学のリーグ戦を見に神宮へ出かけるのも趣味の1つです。希望というほどのものではありませんが、市職員として奉職していたときは思うように旅行ができなかったのが、退職後は妻への罪滅ぼしも兼ねて国内旅行を楽しんでいます。これからも続けていきたいと思っています。

● 先生のお話を伺っていて、「狭山の歴史」の人気の一端がわかったような気がします。今後も末長くお元気で「狭山の歴史」をご講義ください。それから、精々、奥様への罪滅ぼしにご献身を。

活動支援とクラブ活動

会員募集中!

市民大学同窓会の活動には2つの柱となる部会があります。活動支援部会とクラブ活動部会です。この5月現在で活動支援には3つの団体、クラブ活動には14のクラブがあります。

活動支援部会はボランティア活動により地域に貢献すること、クラブ活動部会は学習やスポーツ、趣味などを通じて各自がいきがいを持って仲間づくりと健康増進を図ります。

- 会員はどの部会にも自由に入会できます。
- 同時に2つ以上の部会に入会することができます。
- 同好者と新しいクラブを立ち上げることもできます。

関心がありましたら、「連絡先」にお電話をください。

活動支援部会 3 団体

学校支援ボランティアセンター(SSVC)

代表/諸井寿夫 支援者数/約400 (男女半々)
入会金・年会費/なし
連絡先/事務所(狭山台中南棟2F) 04-2927-1395
電話受付 月・火・金 午後1時~4時

パソコン支援の会

代表者/森 博 会員数/24 (男性10・女性14)
入会金・年会費/なし
連絡先/森 博 04-2952-7954



福祉支援(チョボラの会)

代表者/大内輝夫 会員数/16 (男性2・女性14)
入会金/なし 年会費/500円
連絡先/大内輝夫 04-2959-5652

◎平成27年2月社会福祉協議会主催「第35回社会福祉大会」
で社会福祉協議会会長から感謝の表彰を受ける

クラブ活動部会 14 クラブ

ウォーキングクラブ

代表者/木全英雄 会員数/122 (男性59・女性63)
入会金/1,000円 年会費/2,000円
連絡先/木全(きた)英雄 04-2955-0640
◎注意・入会受付は年1回、4月1日~30日の1カ月間

手打ちそば・うどんを楽しむ会

代表者/堀越圭二 会員数/21 (男性10・女性11)
入会金/なし 年会費/2,000円程度(但し要実費)
連絡先/堀越圭二 04-2953-5468

SC写真クラブ

代表者/戸田尚一郎 会員数/22 (男性18・女性4)
入会金/なし 年会費/12,000円
連絡先/戸田尚一郎 04-2959-3412

歴史クラブ

代表者/村越正治 会員数/85 (男性51・女性34)
入会金/500円 年会費/2,000円
連絡先・会長/村越正治 04-2959-2862



グリーンクラブ

代表者／神坂清太郎 会員数／81 (男性71・女性10)
入会金／なし 年会費／500円
連絡先／高羅尚典 04-2959-5836

パソコンクラブ

代表者／橘敬治 会員数／15 (男性10・女性5)
入会金／1,000円 年会費／5,000円 (前期2,500円、
後期2,500円)
連絡先／宮川澄雄 04-2954-2921

太極拳クラブ

代表者／葛西治 会員数／26 (男性17・女性9)
入会金／1,000円 月会費／1,500円
連絡先／葛西治 04-2957-6992



人間科学 研究会

代表者／山田信子 会員数／15 (男性10・女性5)
入会金／なし 年会費／1,000円
連絡先／山田信子 04-2954-2086

古典芸能 愛好会

代表者／鈴木強 会員数／23 (男性11・女性12)
入会金／500円 年会費／500円
連絡先／鈴木強 04-2952-8617

うた声 さりね

代表者／高須晴子 会員数／23 (男性3・女性20)
入会金／なし 年会費／2,000円
連絡先／高須晴子 04-2958-5176

いきがい学科の会

代表者／鈴木強 会員数／110
入会金／なし 年会費／500円
連絡先／鈴木強 04-2952-8617

囲碁クラブ

代表者／山下邦夫 会員数／28 (男性27・女性1)
入会金／なし 年会費／1,200円
連絡先／山下邦夫 04-2958-0906



卓球クラブ

代表者／小林誠一 会員数／22 (男性11・女性11)
入会金／1,000円 年会費／3,000円
連絡先／小林誠一 04-2959-6830



吹矢クラブ

代表者／野地秀多朗 会員数／18 (男性12・女性6)
入会金／1,000円 月会費／500円
連絡先／野地秀多朗 04-2950-5818



連載予告

ストップ・認知症

正しい知識を身に付け、進行を防ぐ対策を

昨今のマスコミは「認知症」を連日のように取り上げて、社会問題となっています。認知症問題とは一体何でしょうか。高齢者を多数抱える私たち市民大学同窓会でも他人事ではありません。私たちシニアは、「認知症」の正しい知識を身につけるとともに、「認知症」の予防と早期診断、早期治療で進行を防ぐ対策を心がけたいものです。

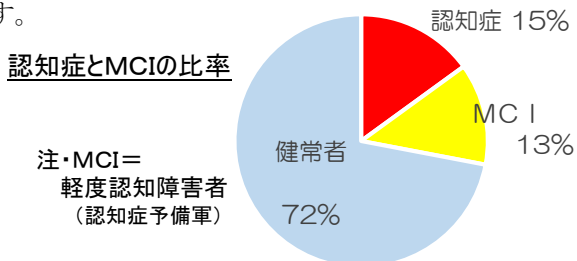
そこで、さやま市民大学同窓会では、この問題に真剣に向き合い、行政とも連携・協働していくべきと考えました。この問題は一過性でなく中・長期の問題として捉えています。同窓会の機関紙という小さな土俵ですが、次号からは頁数も増やして連載していきます。すでに来年2月(予定)には『ストップ・認知症 ―今から間に合う予防とその対策』と題して、講演とシンポジウムを開催することを決めています。

(さやま市民大学同窓会「認知症」研究会)

今なぜ「認知症」を取り上げるか

★「認知症」は長寿の影の部分 私たちは今、「認知症」と無関係ではいられない社会に生きています。日本は世界一の長寿社会、それも超高齢社会なのです。「認知症」は長寿の影の部分から生み出された問題なので避けて通ることはできません。しかもこれは世界的な問題で、世界は日本を見つめています。昨年、日本で「認知症サミット」が開かれました。

★65歳以上の7人に1人、10年後は5人に1人 具体的な数字を挙げてみます。65歳以上の認知症の人は2012年時点で462万人と厚労省は発表しています。高齢者の7人に1人の割合です。これが10年後の2025年になると700万人で、5人に1人になると推計されています。そこで厚労省は、7つの柱を掲げ施策を進めることにしました。そこには、「認知症の人の介護者への支援」や「認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進」などが設定されています。私たち同窓会でもその対応に関心が及ぶところです。



★「明日はわが身」の問題 同窓会では、昨年7月に防災意識の向上を狙って「大震災シンポジウム」を開催し、多くの市民に参加していただき、その目的を達成しました。その際の参加者アンケートには、取り上げて欲しいテーマの1つに「一人住まいの高齢者をどう見守っていくのか」、「正しい認知症の知識を身につけるためには」、「高齢者や障害者が安心

して住めるまちを作るには」「明日はわが身の問題だ」等々の記述がありました。

これら市民の多様な要請に応えるための企画として、同窓会では狭山市と共催で別項のような講演とシンポジウムを開催することにいたしました。

★国家戦略「新オレンジプラン」 この講演会の背景としては、政府は1月27日に認知症施策総合戦略として「新オレンジプラン」の全容を発表しました。厚労省が関係11府省庁と共同して策定したもので、国家戦略として認知症に取り組んでいくというものです。



★MCI(認知症予備軍)とは? ちなみに、認知症への進行を防ぐためにはMCI(=軽度認知障害者)で留めることが期待されています。いわゆる認知症予備軍ですが、全国に400万人いるといわれています。MCIは認知症と健常の間で、①物忘れの自覚がある ②客観的な記憶障害(新しいことが覚えられない) ③記憶以外はおおむね正常 ④日常生活は基本的にできる、の4点です。この層は5年間で50%が認知症に進行するが、適切な治療をすれば現状を維持し、約30%の人は健常に回復できる、とされています。

予告!

来年2月(予定)に狭山市と同窓会が共催で講演とシンポジウムを開催

開催日 来年2月(日時未定)

会場 狭山市民交流センター(市駅西口)

第1部 基調講演/認知症とは

第2部 シンポジウム/認知症の予防対策と治療

◎詳細は次号の同窓会報やホームページに掲載します

こんなこと あんなこと

同窓会がからむニュースから

■ 市民大学の第2期入学式に310名が

4月10日にさやま市民大学の入学式が元気プラザ体育館であり、3コース13講座に310名が入学した。これには10月中旬からスタートする後期4講座は含まれていない。入学式に引き続き共通科目として、全入学者を対象に元狭山市立博物館長の高橋光昭先生から『狭山の歴史概観』の講義があった。



■ 協賛講座「パソコン 初級」始まる

さやま市民大学の協賛講座である「パソコン講座 初級」が4月14日のオリエンテーションからスタートした。今期より初めての試みで主催はさやま市民大学同窓会、講座企画・運営は同窓会活動支援部会の「狭山パソコン支援の会」である。この講座は同窓会の活動領域を拡大するための事業でもあり、ほかに実用英会話講座も協力している。会場の元気プラザのキャパシティーの関係で、定員が20名のところに応募者が多数で抽選となった。今後の10カ月間に28回の講座があり、3名の講師と3名のアシスタントで担当する。



■ グリーンクラブ 第25回記念大会を開催

4月20日、飯能市の久瀬カントリークラブで春季コンペを開催。参加者29名（内、女性4名）。この大会を記念大会とし、併せて、4チーム対抗戦（狭山台、入間川A、入間川B、水野・入曾混成）も行った。

- 個人優勝：安藤眞、準優勝：樋口勝利、3位：甲田実
- チーム優勝：入間川A、準優勝：入間川B
- ベスグロ：（男）安藤眞（84）、（女）川村美砂子（112）



■ 市民大学の第1期修了式 398名が巣立つ

さやま市民大学の平成26年度修了式が3月20日に元気プラザ体育館で開催された。修了生は398名（入学は415名で、修了率は95.9%）。平均年齢は65歳、最高は85歳、最年少は25歳、男女比は半々。第2部の記念公演として、桜美林大瀬沼克彰名誉教授の『地域コミュニティの再生と市民大学の新しい役割』があった。



■ 第1回さやま市民大学学園祭が開催

昨年、11月28日から30日の3日間、狭山元気プラザで市民大学としての第1回の学園祭が開催された。これに同窓会も協力し、野菜の即売、蕎麦の模擬店、赤飯の販売、写真クラブの展示、コーラスなどが参加して学園祭を盛り上げた。なお、この3日間での来場者は1,500人に上った。今年も開催される予定である。



告知板

■ 6月24日に同窓会の第2回定期総会が開催されます
同窓会では6月24日に同窓会総会を下記のように開催いたします。奮ってご出席ください。

- 日時 平成27年6月24日(水曜)
- 会場 狭山市民交流センター 1階(狭山市駅西口)
- 時間 午後1時00分～4時30分(受付12時30分～)
- 内容 第1部/総会
第2部/交流会&お笑いショー
お笑い王国 浅草笑劇場5人の漫才や軽演劇

■ 市民大学の後期開講講座は10月に募集します

さやま市民大学では、後期開講講座として次の4座が10月中旬から開講いたします。期間は来年3月までの6カ月間。詳細は未定ですが、9月の中ごろには募集案内の冊子が発行されます。

- 地域の防災リーダー養成講座
- 食と農のコミュニティビジネス講座
- 子ども見守り隊養成講座
- 地域ケア担い手養成講座

■ 同窓会の事務局を元気プラザ内に開設しました

この4月から、同窓会の事務局を元気プラザ内に設置いたしました。場所は「A棟2階・インキュベーション室1」です。当面は、事務局員は常駐せず、電話の設置はありません。

これまで同窓会の事務局は、「狭山市教育委員会 生涯学習部社会教育課内」に置いていましたが、今後は狭山元気プラザ内の「さやま市民大学同窓会事務局」となります。住所と電話、メールのアドレスは変わらず下段の奥付のとおりです。郵便の宛先は同窓会事務局をお願いします。

【編集後記】

■ 『人間探訪』なる連載を企画し、その第1回としてSSVCで活動されている後藤進さん取材しました。この企画は同窓会員で「特異」な方に登場いただくことでしたが、お目にかかる途方もない「異才」でした。54年間の教職一筋の人生のあと、SSVCには立ち上げ準備から参画され、現在90歳ながら、この4月で支援は10年目に入られています。とにかくお元気で歳を感じさせることはなく、今後も健康の許す限り続けたいと話されます。同窓会には後藤さんのような多才で優れた方々が多くおられ、それらの皆さんの支援で組織が成り立っていることを改めて知ることとなりました。

■ 『ご無沙汰していますーあとの先生は今。』の第2回は狭山の歴史の高橋光昭先生です。市職員として38年間のうち37年間は市の歴史や文化財に携わって、SSCCの講師は第1期から今年で16年目に入りました。

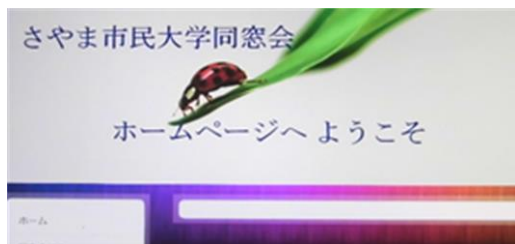
■ 『連載予告 ストップ・認知症ー正しい知識を身に付け、進行を防ぐ対策を』は次号から連載を始める予告です。「明日はわが身」です。同窓会ではこの問題と真剣に向き合い、行政とも連携・協働していこうと考えています。同窓会報という小さな媒体ですが、一過性でなく中・長期の問題として捉えて記事にいたします。

■ 『年度別・学科別に見た募集人数と入学者数一覧』は平成12年のSSCCのスタートからのデータです。未確認箇所については、定員は★、入学は★のマークで示してあります。心当たりがある方は事務局までご一報ください。(G)

■ 訂正して、お詫びします ■

前号(創刊号)に次のミスがありました。●2頁右側「NPO法人さやま市民大学」は『NPO法人』を削除。●5頁左側、学校支援ボランティアセンターの紹介の最終行に『っている。』が欠落。●同じく5頁左側、パソコン支援の会の最終行に『基礎を学ぶ。』が欠落。●7頁右側、歴史クラブの最終行に『加。』が欠落。●9頁左側「一同に」は『一堂に』。●9頁右側「井口考之」は『井口孝之』。

●同窓会の「ホームページ」もご覧ください●



★アクセスの手順

- ① ヤフー、グーグル等の検索欄に「さやま市民大学同窓会」と入力して、「検索」をクリックする。
- ② 「同窓会概要ーさやま市民大学同窓会ホームページへようこそ」をクリックする。

さやま市民大学同窓会 『同窓会報』 2015年春季号 通巻第2号

- 発行日 2015年(平成27)5月15日
- 編集 さやま市民大学同窓会広報委員会
- 発行 さやま市民大学同窓会事務局
〒350-1380 狭山市狭山台1-21 さやま市民大学事務局内
事務局/電話 090-3514-6002
E-Mail; nakajima.t@ae.auone-net.jp